

# 活動・指針報告会資料



公益社団法人  
敦賀青年会議所



# 目 次

## 2021 年度事業報告

|                        |    |
|------------------------|----|
| 2021 年度を振り返って .....    | 1  |
| まちづくり委員会 期末報告書 .....   | 2  |
| 青少年育成実行委員会 期末報告書 ..... | 5  |
| 会員拡大研修委員会 期末報告書 .....  | 8  |
| 事務局 期末報告書 .....        | 10 |

## 2022 年度事業計画

|                        |    |
|------------------------|----|
| 2022 年度 理事長所信 .....    | 13 |
| まちづくり委員会 基本方針.....     | 18 |
| 青少年育成委員会 基本方針.....     | 19 |
| 会員勧誘・情報発信委員会 基本方針..... | 20 |
| 事務局 基本方針.....          | 21 |
| 2022 年度 組織図 .....      | 22 |



2021 年度





## 2021年度を振り返って

公益社団法人敦賀青年会議所  
第62代理事長 林 昇平

「変わらないためには変わり続けなければならない」これは青年会議所でよく聞く言葉です。進化論を唱えたダーウィンが言ったとされるこの言葉は、確かに青年会議所活動を的確に良く当てはまります。時は常に進んでおり、時代は常に発展し続けている中で、自分だけが止まっている状況は退化であると言えます。我々は激流ともいえる時代の変化に、常に適応するべく変わり続けなければなりません。私は2021年、時代の変化に対応できる組織へ敦賀青年会議所を変化させるべく活動してまいりました。

今年のスローガンである「新緑萌芽」は私が作った造語です。我々敦賀青年会議所の60年のスローガン「百花繚乱」で花開いた60年を土壌として、ここから新たに組織改革を行うという芽吹きのスローガンでした。60周年記念式典や大交流会が新型コロナウイルス感染拡大によって開催できないという異常事態の中、我々はどのように活動すべきなのか。何が地域の為になるのだろうか。そんな青年会議所としての本質を改めて見直す機会となりました。そして、会員が価値を見出す活動とはどのようなものなのか、会員に寄り添える組織とはどのようなものなのか、組織としての在り方も見直さざるを得ない状況に立たされました。そのような中で、我々は歩みを止めませんでした。例年通りにいかない不自由はなかったと言えば嘘になります。しかし、困難を乗り越えてこそ課題の解決があり、自己の成長があります。私は理事長挨拶の中で「まちの課題を自分事としてとらえ、自分の子ども達の世代がより良い敦賀で暮らせるために運動を行う」そんな言葉をメンバーの皆さんに伝えさせていただきました。そして理事長所信の中で「敦賀という畑が不毛の地となり、我々の子ども達の世代に恨まれるのは嫌だ」と述べさせていただきました。今年1年、私を動かしてきた動機はこれに尽きます。そしてこの動機は、必ずやメンバーの皆様の共感を得られるものだと確信しています。過去を変えることはできません。未来を変えるためには現在を動かさなければなりません。その想いを、1年間を通してメンバーの皆様のみならず地域の大人たちに波及できたならば、2021年の運動は成功であったと言えるのではないかと自負しております。組織改革、土壌を耕すことに精力した1年でした。この耕した土壌にどのような種をまき、どのような花を咲かせ、どんな身を実らせるのか。それは2022年以降の敦賀青年会議所の課題として託したいと思います。

末筆になりましたが、2021年度お世話になりました関係各所の皆様、シニアクラブの皆様、そして公益社団法人敦賀青年会議所の同志の皆様にご心より感謝を申し上げます。2022年が家倉理事長を中心に1つとなり、素晴らしい1年となることをご祈念申し上げ、2021年の振り返りとさせていただきます。1年間、誠にありがとうございました。



(報告動画はこちら)

# 2021年度 公益社団法人敦賀青年会議所

## まちづくり委員会 期末報告書

委員会構成メンバー：副理事長 家倉 崇吏  
委員長 江村 貴大  
副委員長 畠中 慎吾  
委員 天野 悠、稲葉 紘一、岩井 達也、加藤 拓也、  
北畑 五純、汐谷 文博、今村 洋介、山本 高明

### 【事業紹介】

#### 2月度例会 「共有しよう新幹線開業に向けたまちづくり」

新幹線開業に向けてのまちづくりに関する敦賀全体の動きを共有し、メンバーのまちづくりに対する積極性の向上を図りました。新幹線の開業延期に伴うスケジュール変更、アイデアを実現するための窓口や予算補助に関する情報の周知を行い意識共有のベースアップを行った事で、外部ゲストのお二人のまちづくりに関する思いや実績のお話をより深く落とし込むことができました。同じ敦賀でまちづくりに携わっていても把握していなかった様々な取り組みを体現した人自らの言葉で語っていただく時間は、メンバーそれぞれのまちづくりに対してのモチベーションを向上させる良い体験となったでしょう。ディスカッションにおいてのグループチャットの投稿数は100件を超え非常に活気のある意見交換の材料として機能しました。また、商工会議所青年部や福井ブロック協議会からご参加の皆様からたくさん投稿をいただき、組織外や敦賀市外の方の視点も取り込むことができたことは本例会のタイトルにある「共有」という点で非常にありがたいものでした。これらの内外の皆様の積極性に助けられ、まちづくり事業にむけての実践的なアイデアの発掘に有効な例会でした。

#### 5月度例会 「浪漫の種すごろく」

すごろくとクイズを組み合わせた形式で、敦賀の観光資源に対する認知や興味を呼び起こそうという観点で企画しました。感染症拡大について予断を許さない状況下ではありましたが、消毒やディスタンスの確保に留意し、実施できたことで後々の事業での対策の下地にもなりました。出題の作成において様々な知識を吸収できたこと。また、実施メンバーにおいてもその場で調べる、協議するという過程で意外な人物が豊富な知識を垣間見せたり、勝負ごとに対する熱意ある姿勢がみられたりと、和気あいあいと競い合う中で敦賀の街に関するあらゆる知識にふれることができ、座学とは違った吸収のされ方が見込めたのではないかと。そういった実感のある例会となりました。



## まちづくり事業および9月度例会 「旅人のまなざしを借りて」

「旅する敦賀モデルプラン実行委員会」を立ち上げ、旅行のモデルプラン（敦賀駅～金ヶ崎にエリアを限定した「日帰りプラン」「宿泊プラン」など）を作成し、9月度例会にて、実行委員会が作成したモデルプランの最終選定を行いました。メンバー自身の責任において選定し、旅行体験者による評価を受け入れることが目的であることを十分に周知し事業への積極参加をお願いしました。そして、選定したモデルプランを旅行に関する情報発信の専門家に実際に体験してもらい、それぞれのスタイル（記事・動画・写真 e t c.）で発信、記事作成をしていただきました。モデルプラン体験後、オンラインフォーラムを開催し、旅行体験者が感じた視点を共有し、また、より活用すべきところや、プラスアルファとして必要な要素などを一般市民も交えて意見交換を実施しました。最終成果物として、発信されたコラムや写真をベースにした20ページ程度の冊子を作成し市内でフリー配布いたしました。

### 【2021年度を振り返って】

感染拡大防止の観点からZOOMやハイブリッドでの実施がほとんどでした。各団体の代表のかたからそれぞれ角度の違う提案や意見を交換し合うことができて非常にバリエーションに富んだプランが練られました。9月度例会での選定においても良い意味で意見が分かれる、協議しがいのある提案を届けることができた有意義な委員会でした。委員会やフォーラムに参加したメンバーにとっても、他団体のかたとまちづくりに関する具体的な意見交換というコミュニケーションがとれている様子を確認し、対内目的にそぐう経験を積むことができていました。旅行体験の中でご協力いただいた施設や店舗のみなさん、また偶然触れ合う機会のあった市民のみなさんを、観光体験者の方々が積極的に巻き込む場面もあり、どなたも事業に興味を持っていただき良い経験ができたなどの好感触な感想を述べておられて、局所的ではありますが観光活性に対する市民のモチベーションアップを実感いたしました。オーバーツーリズムの解消や目的を絞ったアプローチの有効性など、市民同士の議論の中では出なかった視点を投げかけていただき、今後も継続的に観光価値を高める取り組みに必要なテーマを得ることができました。冊子の出来に関しては好評をいただいております、アンケートからも読み取れる通り今回のような観光に関するまちづくりの取り組みに対して理解や興味を持っていただけました。感染拡大の懸念の中での非接触型の事業へのチャレンジは、メンバーが充実感を得にくい点もある中、最終的にこういった結果を目の当たりにできたことは喜ばしい点です。また、体験者のSNS投稿にも敦賀市外のかたの大きな反響が持ち寄られていることが確認できており、それらにふれる事でも敦賀の観光価値を実感できるよい材料となっています。未曾有の事態の中、あらゆる懸念をくぐりぬけて実施することを念頭に取り組んだ企画が達成できて非常に充実しました。

### 【引継ぎ及び反省点】

他団体から招聘しての実行委員会の場合、意識も高く議論の力もある方が複数になります。通常の青年会議所内での進行とは違った盛り上がり方が起こりうると想定して、ファシリテーターの選別やシミュレーションを重ねるべきでしょう。今回のように冊子などプロに任せる成果物がある場合、デザイン業者と講演者や執筆者の間を取り持つ場合は、一堂に会しての打合せも適時行いましょう。今回は前例のないオンラインフォーラムもありました。オンラインになれている人はハードル低く来場しやすいという利点があるのでSNSでの広告や告知などが有効な可能性があります。本年度は実施いたしましたがオンラインフォーラムが再度行われる場合は検討してみてください。成果物である冊子「旅人のまなざしを借りて」の中では、敦賀の観光の在り方に関して、多角的な専門家からの視点を取り入れることができると思います。まちづくりに力を注ぐうえでの指標の一つにして目を通していただけると幸いです。

## 2021年度 公益社団法人敦賀青年会議所

### 青少年育成実行委員会 期末報告書

委員会構成メンバー：実行委員長 中山 勝裕  
副実行委員長 井上 太貴、廣田 光範  
委員 小田 尚哉、川井 智哉、立木 健二、  
中村 俊介、中山 国久、縄間 俊朗、林 星

#### 【事業紹介】

##### 3月度例会「覗いてみよう、僕らの青少年時代」

本例会では事前に青少年期（小学生から高校生時代）の頃を思い出しながらその頃のプロフィールシートを作成頂きました。会員それぞれ異なる生い立ちと経験から形成された青少年への想いが描かれており、自身の大切な経験はどのようなものであったかを再確認し、それをどのように今を生きる青少年に伝えることができるのかを考えて頂けたと例会となりました。

また、グループ内発表においてそれぞれプロフィールシートの内容を共有頂き、青少年育成事業に向けて会員同士の絆を深めることを事業目的としておりました。青少年への想いを共有することは新たな会員の魅力を発見し、青少年育成への意識の向上、新たな観点を獲得の機会となりました。

本例会は実施当日前のプロフィールシート作成のご協力とグループワークの積極的な意見交換がなくては成功し得ない内容であり、会員皆様のご協力のもとに本例会の目的を達成することができました。

##### 6月度例会 「青少年育成への熱い想い」

本講演会では、NPO法人森林楽校・森んこ代表である萩原茂男様をお招きして、森林楽校・森んこの今に至る道のりや数々の実施されてきたプロジェクトの説明、そして「楽力」という活動理念について、こういった理念なのか時間いっぱい講演いただきました。子供達には遠い夢より身近な楽しみを持ってもらい、大人が子供達に夢を押し付けてはいけない、苦しいことも楽しみに変えてしまおう等、メンバー皆様が萩原氏独自の熱い考えや想いに共感や、深く考えるきっかけになったと感じて頂けたことで本例会の目的を達成することができました。質疑応答の時間では講演会ではなかった、また視点の違った意見交換となり萩原氏の考え方や想いを深堀し、幅広い意見交換の場となりました。

また、「楽しみを分かち合う力は、笑顔を作り、笑顔が楽力を生む」という「楽力」の最終地点を皆様にお伝えすることができました。青少年育成事業の前段の例会として、講演を聞いて学んでいただいたこの楽しみの力という学びを、事業名にある通り、青少年育成への熱い想いとして青少年育成事業に有効活用できると例会となりました。

## 青少年育成事業 「MINE CAMP～実りある経験を得る法則～」

キャンプインストラクターのもと青少年期の子供たちを対象に、小学生4～6年生の参加者15名を4班に分けて、キャンプという普段体験できないような自然の中で様々な体験を行える1泊2日の事業を行いました。また、新型コロナウイルス感染症が比較的収まっている中である為、対策を十分に行い開催する事ができました。イベントの数自体が少ないのもあってか定員を大きく超える申し込みをいただき、参加した子供達も感染症対策やキャンプ場内ルールを良く守り体験をしてくれました。

参加者にも「楽力」を身に付けてもらう為、メンバーにはその体験を好きになるように、各体験後に参加者の子供達を褒めていただくようお願いしておりました。その効果もあり楽しいと思えることを1つでも多く実施する事ができたと確信しております。さらに、参加者アンケートや保護者アンケート結果から分かるように、感染症対策を考えた野外での事業を求めているという感想が多く、子供に普段できないような体験の場がもっと増えれば良いといったご意見が多く見られました。抗原検査や4人1グループで活動する等Withコロナを意識した事業開催となり、今後の感染症対策をとり入れた事業やイベントのモデルと十分になり得る事業となりました。

## 11月度例会 「コロナに向き合い考えよう青少年の為に」

本例会では、まずは今年度の青少年育成事業「MINE CAMP」について、分かりやすく振り返りと検証をさせていただきました。コロナ禍の中、開催することができたこの大きな事業を検証することで、コロナ禍でも事業が開催できることの可能性を立証できたと感じております。そして次年度以降も続くコロナ禍の中、我々はどのような青少年育成事業を開催することができるのか、参加いただいたメンバー全員で考える事で、多種多様な事業を模擬的に企画することができました。

皆様には短時間で模擬的な企画を考えていただいた為、実際開催できるのか等の問題はありませんが、我々JCメンバーの素晴らしい知恵と豊かな想像力をもってすれば、コロナ禍にしっかりと向き合い、次年度以降も素晴らしい青少年育成活動ができることを確信でき、本例会の目的を達成できたと考えます。

## 【2021年度を振り返って】

2021年は前年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響で、例年できていた事ができなかったという印象です。理事長所信にもあるように、新型コロナウイルス感染症を考え、その中でも行える事業構築が今年の課題でもあり、目標でした。その為、青少年育成事業の計画は難易度が上がり、参加した青少年と事業関係者共に感染症対策という事業をもう一つ行っているような事業構築となりました。

青少年育成事業に向けての3月度例会と6月度例会は準備例会という形で開催し、当日の青少年育成事業は段階を踏み効率の良い事業になりました。また、11月度例会で事業の検証及びWithコロナを考える例会とする事で、今後の感染症対策を取り入れた事業やイベントのモデルになり得ると確信できた事業ができたことと確信しております。今後も続く新型コロナウイルス感染症の影響で事業をしないのではなく、毎年レベルアップしどのようにしたらできるのかを考えていってほしいと思います。

## 【引継ぎ及び反省点】

広報に関して、小学校にチラシを配る事が最も効果的で青少年育成関係の事業を行うのであれば、外せない広報場所であると考えます。実際定員を大きく超える申込がありましたが、今後事業直前のキャンセルによって定員に満たなくなるといった事にならない為にも、申込者がキャンセル待ちの方を入れて定員の倍の申込を限度とされた方が良いかと思いました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響で今後も対面とWEBでのハイブリッド開催が主流となっていくと思いますが、WEB操作に手を取られトラブルが多くなりがちです。さらに、メンバーがなかなか集まらずわずかな時間でのリハーサルとなり、本番はもちろんトラブルが多くなり対処も遅れる事となります。音声等を確認してくれるWEB班同士で、しっかりと当日リハーサルを行えるように確認を行うか、代役を考えておくべきだと思いました。また、リハーサルの大切さを委員会メンバーに周知して来てもらえるように担当をしてもらう等工夫も必要かと思います。

## 2021年度 公益社団法人敦賀青年会議所

### 会員拡大研修委員会 期末報告書

委員会構成メンバー：副理事長 引場 健仁、森山 司  
委員長 宮本 直弥  
副委員長 平本 瑞基、畠 準史  
委員 榊間 夏生、川口 輝笑、加藤 拓也  
曾我 裕貴、栗谷 一浩

#### 【事業紹介】

##### 4月度例会「新入会員オリエンテーション」

新入会員が青年会議所の目的・意義を理解すると共に新入会員と既存会員が互いに理解を深めることを目的に例会を開催する予定でしたが、福井県緊急事態宣言発令に伴い、公益社団法人敦賀青年会議所2021年度新型コロナウイルス感染症の対応に則り例会中止に至りました。

##### 8月度例会「～仲間の職業について理解を深めよう～」

共に活動を行う仲間の職業について理解を深め合い、一人ひとりが青年経済人として成長することを目的として例会を開催しました。（2021年度新型コロナウイルス感染症対策に基づき完全リモート開催）事前にメンバーから提出して頂いた会社プロフィールを用いてグループ毎に例題に沿ってディスカッションを行いました。お互いの職業についてより深く理解し、仕事に対する考え方等について話し合うことで一人ひとりが青年経済人として成長し、青年会議所を離れた環境での個々の活動を改めて理解できました。また、敦賀青年会議所に在籍するメンバーで偏っている職業や不足している職業が明確になったことは、今後の会員拡大においても大変参考になったと考えます。

##### 10月度例会「～リーダーの在り方とは～」

リーダーとしての資質や意識がより一層向上する事を目的として、事業におけるリーダーとして大きな実績を残されている、「敦賀ガス株式会社 代表取締役社長 竹中善一先輩（JC卒業生）」から、リーダーの在り方についてご講演いただきました。配下の方などを含めた心の掴み方や、リーダーに必要な決断力などを中心にご講演いただき、ご講演後には事前にメンバーから募った質問にもお答え頂く時間を設け、メンバーの悩み等にも向き合っていただきました。JC現役時のエピソードも交えてご講演いただいた事で、我々現役メンバーは事業、JCのどちらにおいても刺激を受ける事となり、メンバーの意識向上へ繋がったと考えます。



## 1 2 月 度 例 会 「 ～ 感 謝 の 集 い W e b 版 ～ 」

本例会は感染拡大防止の観点から Z O O M にて行い、日頃お世話になっている方へ感謝の気持ちを伝え、青年会議所活動に対する理解を深めていただくことを目的として開催しました。各委員長から 2 0 2 1 年度の事業報告を行い青年会議所の活動について理解を深めて頂きました。また、例会出欠に関わらずご家族の方への感謝の気持ちを伝えるため手紙と花束を各メンバーより贈る形をとり、どうしても当日参加できないメンバーも家族の方に感謝の思いを伝えることが出来ました。アトラクション準備から事業構築までほぼ全ての設えを新入会員が中心となっており、とまどいながらも協力して懸命に取り組むことで大きく成長し新入会員同士の絆がより深まりました。メンバー同士が協力して活動ができることに互いに感謝し、青年会議所活動にご理解いただいているご家族の方に日頃の感謝の気持ちを伝える例会として、手法も含めて今後の活動に大きな収穫と経験ができた例会となりました。

### 【 2 0 2 1 年 度 を 振 り 返 っ て 】

当委員会ではあらゆる手段を模索しながら新しい多くの同志との出会いに果敢に挑戦すると共に、皆さんにとって魅力あるリーダーへと成長するきっかけになる一人となる事を基本方針に掲げて 2 0 2 1 年度をスタートしました。しかし 2 0 2 1 年度は、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、企業訪問の制限や例会の中止、開催方法の変更など委員会活動においてあらゆる場面で対応を問われる事が多い一年となりました。

そのような状況の中でも、5 名の新入会員との出会いがあり委員会メンバーが一丸となって新たな手法を模索しながら今までにない様な形で例会などをやり遂げた事は、今後の敦賀青年会議所にとって大きな成果を残せたと思っています。我々の活動は事前の準備や打合せが不可欠です。メンバーが顔を合わせる機会が少なかったからこそ、それぞれが自分の役割に責任を持って取り組むことで新入会員を含む全委員会メンバーが成長できた有意義な 1 年でした。

### 【 引 継 ぎ 及 び 反 省 点 】

本年度の会員拡大研修委員会は、4 回の担当例会において中止・急遽リモートへの変更・ハイブリット形式・完全リモート形式と新型コロナウイルス感染拡大においての影響を受けたほぼ全ての形式の設えを経験しました。近年の新型コロナウイルス感染に関わらず、天候などによって開催が中止や延期・形式を変更する事態は今後の活動においても起こりうることです。

段取りや役割を決めて組織で活動している我々は、予定通りにいけば大きな成果を残せますが想定外の事態に対応するには時間が掛かります。委員会においてあらゆる事態に対してどのように対応するか事前に委員会内で想定しておく事がとても大切です。会員拡大に対しても予定者の段階から新型コロナウイルス感染拡大で身動きが出来ない状況でどのように勧誘を行うか事前に打ち合わせを密に行っていればもっと多くの同志に出会えたかもしれません。

今後、会員拡大や例会開催においては事前にあらゆる事態にどのように対応するかを委員会内で決めて、委員会メンバー全員それぞれがすぐに対応できる体制を整えておくことが大切だと感じました。

# 2021年度 公益社団法人敦賀青年会議所

## 事務局 期末報告書

事務局構成メンバー：専務理事 笠嶋 勇一  
事務局長 成田 宏光  
副事務局長 武岡 健  
財政局長 景山 将也  
事務局次長 田中 佑輝、川島 昌欽、加野 翔太郎

### 【事業紹介】

1月：定時総会

7月：第1回臨時総会

12月：第2回臨時総会

### 【2021年度を振り返って】

2021年度の事務局の活動は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、例年と比べると対面での活動が難しく、世の中の動向に大きく左右された1年となりました。

まず、毎月の会議に関しては対面とオンラインを併用したハイブリッド会議を主軸とし、感染が拡がり、緊急事態宣言が発令された際には、敦賀JCコロナ対策規定に沿って完全オンラインでの会議を行うなど、その都度運営を見直していきました。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、2021年度同様活動が制限された2020年度の活動をシニアクラブの方々及び来賓の方々に向けて発表するような新たな事業も行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業開催3週間を前にして断念することとなりました。開催に向けての準備などに注力してきた分、悔しい思いもありましたが、準備も含めて自分自身の成長につながると思ひも芽生えてきましたので、無駄ではなかったと思います。

2021年度の事務局は事務局長を含め経験の浅いメンバーでの構成となり、様々な面でご迷惑お掛けしました。また、事務局長が敦賀市内に在住しておらず、事務局次長とのコミュニケーションを多く取ることができなかったため、副事務局長や財政局長に多くの負担を掛けてしまいました。ただ、その中でも、多くの方々の温かいサポートによって何とか2021年度を不揃いながら無事に終えることができました。色々と困難なこともありましたが、今となっては良い経験になったと思います。事務局一同、皆様には本当に感謝しております。



### 【引継ぎ及び反省点】

事務局の主な活動としては、毎月の理事会の設営や地区及びブロックの事業のサポート、出欠確認など一年間多岐に渡ってその役割を担うことになります。本来であれば経験の浅い2年目の次長陣をうまく纏め上げ、活動に参加してもらい敦賀JCの活動に意義をもってもらうことも事務局長の役割でもあります。最後までできませんでした。本来であれば理事会にオブザーバーとして参加してもらい、会議の進行の仕方を学んだり、議事録を取ることによって、間接的に事業の内容や議案の書き方を学んだり、事務局次長だからこそ学べることも沢山ありましたが、その機会を与えることができなかったことは本当に後悔しております。

また、毎月の会議や定期の総会の設営準備に関して財政局長や副事務局長には本当に多くの負担を掛けてしまいました。2022年度は事務局次長に積極的に参加してもらい、負担のバランスを保てるようにしてください。役割分担をしっかりとすることで、効率的な運営に繋がります。

2022年度も2021年度同様、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらの活動になると思います。会議及び総会の運営は2021年度に近い形になると思いますので、過去の議案や報告書は参考になると思います。



2022 年度





## 公益社団法人敦賀青年会議所 2022 年度 理事長所信

スローガン

# 心を動かす

第63代 理事長 家倉 崇吏

### はじめに

私たち日本人は1945年、第二次世界大戦で敗戦し、大部分が廃墟となった状況から立ち上がり、高度経済成長を実現させました。そしてまた、大震災、豪雨、度重なる自然災害など、未曾有の危機に見舞われながらも幾度となく復興してきました。その先人たちの中心にはいつの時代にも青年世代の活躍がありました。

現在、2020年より新型コロナウイルスの感染が拡大し、世界規模で社会、経済、政治、そして、私たちの生活に大きな影響を及ぼしております。この青年会議所に所属する私たちの世代こそがこの危機に立ち向かうべき責任世代であります。私たちの活動は世界や国の問題を直接変えることは難しいかもしれませんが、しかし、私たちが住み暮らす地域の問題であるなら取り組み改善することが可能です。地域に必要なとされる組織であるためにも果敢にチャレンジできる敦賀青年会議所を作り上げ、私たち一人ひとりが地域の心を動かせる活動をしていきましょう。

### 「敦賀市の現状」を捉える

私たちが運動を進めていくには、敦賀市のまちの課題を洗い出し、現状を捉えておかなければなりません。今の敦賀市には様々な課題があります。例えば、高齢化、人口減少、そして人口減少に伴う経済の縮小、商業施設の開発が進む中で中心市街地の衰退化等も課題として挙げられます。

また、課題だけではなく、敦賀市の魅力もしっかりと捉えておく必要があります。敦賀市には、古くから鉄道と港のまちとして繁栄し、「命のビザ」として有名な杉原千畝が発給したビザを手にしたユダヤ人難民を敦賀市へと温かく迎え入れたという誇り高い歴史があります。また、国の重要文化財にも指定されている日本三大木造大鳥居のひとつである氣比神宮を代表とする歴史的建造物を有することや、美しい自然などは敦賀市の大きな魅力です。そして、2024年春に予定されている北陸新幹線敦賀開業は、この敦賀市にとって大きなチャンスとなります。観光誘客拡大やテレワークの導入など技術革新により地方への関心が高まる時代へと変化しており、この時代の変化を千載一遇のチャンスと捉え、活動していくことが必要です。今の敦賀市の現状をしっかりと捉え、多くの人の心をつかみ明るい豊かな社会の実現に向け活動をしていきましょう。

### 青少年の未来に向けて

急速な情報化や技術革新によって社会は常に変化を繰り返しております。このような将来の変化を予測することが困難な時代において、子供たちには、現在と未来に向けて、自らの人生をどのように生き抜いていくかが問われてきます。

現在の子供たちが、将来就くことになる職業についても技術革新等の影響により大きく変化することになると予測されています。子供たちの将来は、存在していない職業に就くとの予測があり、今後20年程度で半数近くの仕事が自動化される可能性が高いとされて

います。予測が難しい未来に対応していくためには、社会の変化に受け身でいることなく主体的に向き合い関わっていくことが重要です。そして、現在に目を向けてみれば新型コロナウイルス感染症の拡大が大きく社会全体を変化させ、教育現場にも大きな影響を与えました。子供たちにとっては、「勉強の遅れ」「行事などの中止」「部活動の中止」などがあり様々な機会が失われております。子供たちは主体的に機会を捉える力が必要とされる時代を迎えております。子供たちの「生きる力」を育むことの重要性をこのコロナ禍において改めて考えさせられる機会となりました。この未曾有の危機の状況でも子供たちが現実の課題と向き合いながら学び乗り越えていくために私たち地域の大人がしっかりとサポートしていくことが必要だと確信しています。

## 時代の変化に対応し会員の魅力を高める組織

新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、敦賀青年会議所の活動においても大きな影響がありました。今まで活用していなかったWEBによる会議。数年前にはこのような状況になるとは想像がつきませんでした。紙資料で会議を行っていたのがパソコンを用いて会議を行うようになり連絡手段もFAXからメールやSNSによるものなどに変化しました。時代の変化を捉えて新たな情報技術をしつかりと活用することで限りある時間を有効活用することができ、会員のモチベーションを高め、そして、多くの市民に活動を知ってもらう機会をつくることができます。

また、全国的にみても青年会議所の会員数が減少しており会員拡大は難しい状況に置かれております。なぜ会員拡大をしなければならないのか。青年会議所は40歳で卒業を迎えます。会員を増やし続けていかなければいずれ組織として活動が難しくなり地域の課題を解決することや青少年の育成など、自分たちの目標とする「明るい豊かな社会の実現」を掲げ活動を行うことができないからです。時代背景は様々ですが、青年会議所は40歳までという限りある時間を共有し、会員同士が刺激し合いながら人間としての魅力を高めていく組織であると思います。人間としての魅力を上げるには、特別な才能や能力ではなく、冷静に自分自身を見つめられる客観性や、人の心に寄り添える感受性を養うことが必要です。それができるのが青年会議所の活動ではないでしょうか。市民の意識を変える団体として地域や市民から必要とされ63年という歴史の由縁であります。

## 結びに

私が敦賀青年会議所に入会したのは2008年でした。入会当初は仕事を理由に積極的に活動が出来ておらずいつも皆様に迷惑を掛けておりました。そんな中、当時の先輩の皆様には「仕事で忙しいと思うけど、落ち着いたらおいで」などの優しいお言葉をかけてもらったことを今でも忘れておりません。先輩からの熱い言葉や、励ましや教えなどがあり辞めずに頑張ってみようと思決意したことを今でも覚えています。その後、様々な役職をさせて頂きました。その全ての経験が自身の成長に繋がるものばかりでありました。青年会議所を通じて一番学んだことは「何事も諦めない」ことだと私は考えております。入会する前の私であれば少しの困難も耐えられず逃げ出していました。そのような私を変えてくれたのが青年会議所であります。

最終年度を理事長として迎えることに、会員の皆様、そして、先輩方に大変感謝しております。その感謝の想いで1年間、私たちが今まで学んだことを敦賀市の未来を明るくする為に、仲間と共に目の前の課題を解決できるよう活動して参ります。

「目の前にある課題が大きいほどやる気がでる」

平井 一夫(前ソニーグループ社長)

## 基本理念

全員が心をつとめし 一人でも多くの人の心をつかむ

## 基本方針

1. 北陸新幹線敦賀開業に向け敦賀に住みたくなる事業の展開
2. 青少年が主体性を持ち成功体験を得る事業の展開
3. 青年会議所の魅力を発信する広報活動の展開
4. 次代を担う JAYCEE の発掘と育成のための事業の展開
5. 新型コロナウイルス感染症拡大防止を取り入れた事業計画
6. With コロナ対応事業への参画
7. 公益社団法人基準に則った事業の展開
8. 行政、他団体とのさらなるパートナーシップの強化
9. 日本 JC、地区、ブロックへの支援連携
10. 日本 JC、地区、ブロック事業への積極的参加

## 委員会構成

### 3 委員会 2 局

#### まちづくり委員会

新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりテレワークを導入する企業が増えたことで都会に住まなくても地方で仕事ができる時代へと変わり、地方への関心が以前より高まりました。敦賀市には風光明媚な自然に恵まれ素晴らしい魅力が多くあります。歴史、文化、自然と一緒に楽しむことができる住みよいまちであり、今後敦賀市も移住先として選ばれる可能性があります。2024 年春に予定されている北陸新幹線敦賀開業という敦賀市にとっては、大きなチャンスを活用できるように敦賀市の現状を把握し、自分たちの住み暮らすまちの魅力を捉えて「敦賀市に行きたい」「敦賀市に住みたい」となるような事業を展開していきます。

- ・2 月度例会の担当(他4)

まちづくり事業に向けて、会員が楽しみながら参画できる事業

- ・5 月度例会の担当(他4)

敦賀市の現状と課題についての事業

- ・9 月度例会の担当(他4)

まちづくり事業の事業説明または事業実施後の検証

- ・まちづくり事業担当(公3)

北陸新幹線敦賀開業に向け敦賀に住みたくなる事業

- ・With コロナ対応事業への参画

- ・会員候補者の情報収集と会員拡大

- ・日本 JC、地区、ブロックの各事業への積極的な参加

- ・総会決議、理事会で承認された事業および業務担当

#### 青少年育成委員会

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により家庭や生活環境も大きく変化する中、将来の変化を予測することが困難な時代を前に青少年には、現在と未来に向けて、自らの人生



をどのように拓いていくかが求められてきます。この先、2030年には少子高齢化が更に進行する恐れがあります。また、グローバル化や情報化のスピードに対応できないなど懸念されております。社会環境の変化や未来への予測が困難な時代だからこそ、今の青少年に必要なことは自身で生涯を生き抜く力が必要だと考えます。

例えば、一生懸命に自分でアイデアを出し取り組んだ成果として「カタチ」となったとき主体性を持った成功体験ができます。次代の地域の担い手である青少年に明るい社会を築くためにも、青少年に社会の変化に対応し、新しい時代に求められる資質や能力を醸成する事業を展開してまいります。

- ・4月度例会の担当(他4)

- 青少年育成事業に向けて、会員が楽しみながら参画できる事業

- ・6月度例会の担当(他4)

- 青少年育成事業の事業説明

- ・11月度例会の担当(他4)

- 青少年育成事業の検証

- ・青少年育成事業の担当(公1)

- 青少年が主体性を持ち成功体験を得られる事業

- ・With コロナ対応事業への参画

- ・会員候補者の情報収集と会員拡大

- ・日本JC、地区、ブロックの各事業への積極的な参加

- ・総会決議、理事会で承認された事業および業務担当

## 会員勧誘・情報発信委員会

青年会議所の特徴として、単年度制で毎年役割が変わる点があります。継続して同じ事業を行うのは基本的にはないはずです。青年会議所が唯一継続していることが会員拡大であります。私たち青年会議所は様々な職種などすべてにおいて異なる会員が同じ目標に向かって活動しています。また、自身の人格を磨き上げ、人として成長できる場所であり仲間と切磋琢磨することで組織運営を体験しながら学ぶことができる場でもあります。しかし現在、様々な社会情勢の変化により会員数の減少が問題となっております。いくら魅力ある組織でもこのまま会員数が減少すれば会としての運営すらできなくなります。私たちの歴史や運動を絶やさない為にも、全会員を巻き込みながら会員拡大を行います。

そして、敦賀青年会議所の様々な運動や活動などSNSを活用しながら知って学ぶ魅力のある広報活動を行い、組織の未来へ大きな財産となる運動を展開していきます。

- ・3月度例会の担当(他4)

- 新入会員オリエンテーション

- ・8月度例会の担当(他4)

- 現役会員同士の交流事業

- ・10月度例会の担当(他4)

- 会員の成長が得られる事業

- ・12月度例会の担当(他4)

- 会員交流事業

- ・With コロナ対応事業への参画

- ・会員候補者の情報収集と会員拡大の主導

- ・魅力ある広報活動(SNS活用)

- ・日本JC、地区、ブロックの各事業への積極的な参加

- ・総会決議、理事会で承認された事業および業務担当



## 事務局

事務局は、青年会議所が円滑に運営するための要であります。事務的な作業が多くなりますが事務局が無ければ青年会議所の活動ができないと言っても過言ではないでしょう。事務局は対外的な窓口でもあり、敦賀青年会議所の運動を効果的に発信していくことも事務局の役割であります。

また、日本青年会議所、北陸信越地区協議会、福井ブロック協議会への積極的に参画を促していくことも事務局の職務であり、敦賀青年会議所以外の運動を会員に提供することも事務局としての使命であります。事務局が青年会議所を運営していることを自覚し、頼られる組織運営を行っていきます。

- ・ 定時総会の担当(他4)
- ・ 活動・指針報告会の担当(他4)
- ・ 臨時総会(7月・12月)の担当(他4)
- ・ With コロナ対応事業への参画
- ・ ホームページ・SNSの運営
- ・ ブロック公式訪問及び理事懇談会の設営
- ・ 理事会の設営
- ・ 総会・理事会の議事録の作成
- ・ 日本JC災害ネットワークに関する業務
- ・ 会員候補者の情報収集と会員拡大
- ・ 日本JC、地区、ブロックの各事業への積極的な参加
- ・ 総会決議、理事会で承認された事業および業務担当

## 財政局

財政局は財務諸表の作成や指導、コンプライアンスの精査、財政バランスの確認など、金銭を伴う活動を審査、指導する立場であります。公益社団法人として名乗る団体として恥じないよう務めなければなりません。財務状況の透明性の高い組織は社会的信用度が上がります。そして、市民から信用され頼られる団体として、厳格な財政管理を行ってまいります。

- ・ 財務会議の実施(適宜)
- ・ 公益社団法人会計基準に基づく財務諸表の作成
- ・ 監督自治体への年次報告書の作成
- ・ コンプライアンスの精査
- ・ 各事業における財政バランス、費用対効果の検証と指導
- ・ With コロナ対応事業への参画
- ・ 会員候補者の情報収集と会員拡大
- ・ 日本JC、地区、ブロックの各事業への積極的な参加
- ・ 総会決議、理事会で承認された事業および業務担当



(報告動画はこちら)

## 2022 年度 まちづくり委員会 基本方針

|        |       |
|--------|-------|
| 担当副理事長 | 中村 俊介 |
| 委員長    | 畠中 慎吾 |
| 副委員長   | 笠嶋 勇一 |
| 副委員長   | 加藤 拓也 |

### 【活動基本方針】

敦賀市はこれまで北陸新幹線の開業に向け、国道8号をはじめとするハード面の整備や観光客誘致に向けたおもてなしの体制を整えてきました。その努力もあり、敦賀市のみならず県内の観光客数は2019年には過去最高を記録しています。2020年以降は新型コロナウイルス感染症対策による県外移動の自粛の影響もあり観光客数は減少していますが、北陸新幹線が敦賀駅まで延伸した暁には、観光客の更なる増加に期待が持てます。

観光客が増加することは、まちにとって良いことであり大変喜ばしいことです。しかし、まちづくりの本質を考えたとき、観光客の誘致も大切ですが、「人口減少対策」はより大きな課題であると感じています。人口減少が引き起こす影響には、小売業・飲食業・娯楽業・医療機関等の縮小をはじめとする生活関連の利便性低下や、それらの雇用機会の減少が進むことによる、働く場所を求めた県外への転出があります。また、空き家・空き店舗の増加や学校の統廃合による地域コミュニティの減少がまちの魅力の低下となり、更なる人口減少を引き起こすという悪循環にも陥ります。現に、敦賀市においてもシャッター商店街の進行や小中学校の統廃合も既に始まっており、決して目を背けることは出来ない状況にあります。それ故に、これからの敦賀市に必要なまちづくりとは何かを考えた時、人口減少対策がまちづくりに対する効果が一番大きく、最重要事項だと考えます。

人口の減少を抑えるためには、転出者より転入者の割合をいかに上回らせることが出来るか、もしくはその差を小さくしていくことが大事です。言葉で表すことは簡単ですが、それを達成するには非常に多くの方の協力が必要になります。我々 JC だけではこの課題を解決していくことは困難です。行政や市民、県など、まち全体に対して人口減少対策の重要性を伝えること、そのために何が求められているのか、また市民や移住を考えている人は敦賀市には何が不足していると思っているのかを把握し、それを実現させるためにはどうしたら良いのかを考え、行動することが、我々 JC がやらなければならないことです。北陸新幹線の開業は、敦賀市に対して市内外からの関心が高まり多くの方に敦賀市の魅力を伝えるチャンスとなるはずですが、北陸新幹線の開業がゴールではなく、その先にある敦賀市の発展を達成するためにも人口減少対策を推し進め、敦賀市へ行きたい、敦賀市で暮らしたいと思う人を増やすことこそが、これからのまちづくりに必要であると信じて活動していきます。

### 【事業計画】

1. 2 月度例会 (他 4)  
まちづくり事業に向けて、会員が楽しみながら参画できる事業
2. 5 月度例会 (他 4)  
敦賀市の現状と課題についての調査
3. 9 月度例会 (他 4)  
まちづくり事業の事業説明または事業実施後の検証
4. まちづくり事業の担当 (公 3)  
北陸新幹線敦賀開業に向け敦賀に住みたくする事業
5. With コロナ対応事業への参画
6. 会員候補者の情報収集と会員拡大
7. 日本 JC、地区、ブロックの各事業への積極的な参加
8. 総会決議、理事会で承認された事業および業務担当

### 【委員会運営方針】

1. 月 1 回以上の委員会の開催
2. 事業実施に向けた早めの準備の徹底
3. 情報共有の徹底



(報告動画はこちら)

## 2022 年度 青少年育成委員会 基本方針

|        |       |
|--------|-------|
| 担当副理事長 | 畠 準史  |
| 委員長    | 縄間 俊朗 |
| 副委員長   | 井上 太貴 |
| 副委員長   | 武岡 健  |

### 【活動基本方針】

新型コロナウイルス感染拡大から約2年、感染状況により、未だに学校行事等の規模縮小や、外出の自粛を強いられる状況が続いており、青少年の日々の活動範囲は限定されています。私がコーチをしている敦賀市内の小学生を対象にしたバスケットボールのクラブチームでも同様に、県外への遠征は未だに中止、市外への遠征や大会は規模を小さくするなどの条件付きで開催されており、選手たちは今まで積み上げた練習の成果を十分に発揮することができないまま卒業を余儀なくされているのを目の当たりにしています。

青少年期におけるさまざまな活動は、社会人になってから経験することのできない貴重なものばかりです。なぜなら「部活動」や「社会体験学習」などに取り組むことは、成果を発揮する絶好の機会であり、その中で失敗や成功を繰り返すことが自身の成長を促し、青少年が社会を生き抜いていくための必要な力を得ることができるからです。力を得た先には主体性が生まれ、目まぐるしく変わる時代の変化に対応し未来のために行動を起こしていくことができます。コロナ禍だからこそ、今を生きる青少年に多くの経験を積み重ねてもらうことが大変重要であると考えます。そして、そのきっかけを創り出すことが、我々敦賀青年会議所の役目です。

青少年育成を考える当委員会が青少年の「経験」を1番近くでサポートし、彼らがこれから社会で生き抜いていく力を持ち、自信を持てる人間性を養うための役割を果たします。様々な困難に立ち向かい、活動を継続してきた「経験」を有する我々ならば、今年度も新型コロナウイルス感染症等の影響が生じても、青少年が明るく豊かな人生を歩んでいくために、主体性を持って行動できる青少年に成長させることができると信じています。そのために、事業を通じて青少年が多様な体験に対し、自分の頭で考える力、目標達成に向けて行動する力を高め、多くの「経験」を得ることで主体性を持ち、彼らが未来の敦賀市を担う人材になれるような事業を創出するべく活動していきます。

### 【事業計画】

1. 4 月度例会の担当(他4)  
青少年育成事業に向けて、会員が楽しみながら参画できる事業
2. 6 月度例会の担当(他4)  
青少年育成事業の事業説明
3. 11 月度例会の担当(他4)  
青少年育成事業の検証
4. 青少年育成事業の担当(公1)  
青少年が将来的に自立して生きるための事業
5. With コロナ対応事業への参画
6. 会員候補者の情報収集と会員拡大
7. 日本 JC、地区、ブロックの各事業への積極的な参加
8. 総会決議、理事会で承認された事業および業務担当

### 【委員会運営方針】

1. 月1回以上の委員会の開催
2. 委員会においての理事会報告の実施
3. 委員会メンバー全員が主役になる事業構築
4. 委員会欠席者に対する情報共有



(報告動画はこちら)

## 2022 年度 会員勧誘・情報発信委員会 基本方針

|        |    |    |
|--------|----|----|
| 担当副理事長 | 平本 | 瑞基 |
| 委員長    | 高木 | 拓郎 |
| 副委員長   | 田中 | 佑輝 |
| 副委員長   | 景山 | 将也 |

### 【活動基本方針】

1,434,000 円。これは私、委員長の高木が敦賀青年会議所に入会してから 13 年間で支払った入会金、年会費を合計した金額です。そしてまた、13 年間で膨大な時間を敦賀青年会議所の活動に費やしてきました。この最終年度に今思うことは、所属するためにこれだけの金と時間が必要ならば、入会しなければよかったと思う後悔などではなく、多くの学びと経験を得ることができた敦賀青年会議所と、そしてそこで出会った仲間に対する心からの感謝の思いです。例を挙げればきりがありませんが、何かを成し遂げるためには信念と熱意が必要不可欠であるということを、会議や事業を通して学ぶことができました。そして何よりも、一つの目標に向かい、共に知恵を出し、助け合える仲間や、時には衝突することがあったとしても、最後はお互いに認め合うことができるような仲間を作ることでもできました。敦賀青年会議所には多くの魅力がある中で、そのような仲間との出会いこそが最大の魅力であり、所属する価値の根源であると私は確信しております。

今年度の会員拡大活動においては、新入会員候補者に対し、敦賀青年会議所には多くの魅力的な仲間がいること、そしてその仲間と共に切磋琢磨していくことで自らの成長につながることをしっかりと伝え、新入会員候補者を勧誘して参ります。新入会員候補者が、まだ見ぬ仲間との出会いに心躍らせてもらえるよう勧誘を行います。そして入会後には、入会してよかったと思えるよう、密に連絡を取ったり、分かりやすく情報を伝えたりなど、多くの活動に参加してもらえるフォローを行い、魅力的な仲間との交流を促して参ります。

また、最近の新型コロナウイルス感染症の流行により、メンバー同士が直接会う機会が激減したことで、情報がメンバーにうまく行き届いていないという傾向があります。対内的な情報発信を強化していかなければ、メンバー間の情報格差がますます広がり、敦賀青年会議所の知的財産等が失われていく可能性があります。そこで、対内的な情報発信を強化していくための活動として、簡潔に動画などに情報をまとめたうえで、SNS 等の IT ツールを用いた情報発信を行います。IT ツールは敦賀青年会議所の公式アカウントを活用することで、情報をメンバーが繰り返し確認できるようにします。情報の内容としては、例会や事業といった運動、活動にメンバーが積極的に関与していけるようなものを考えております。また、敦賀青年会議所がこれまでの活動で築いてきた知的財産、例えば事業の構築方法、組織の運営方法などがありますが、そのような情報も発信を予定しております。

委員会として大変課題の多い分野を担当することとなります。しかし、「目の前にある課題が大きいほどやる気がでる」の言葉通り、委員会メンバー全員やる気に満ち溢れております。委員会が一丸となってこの敦賀青年会議所に革命を起こす気概で 1 年間活動して参ります。

### 【事業計画】

1. 3 月度例会の担当 (他 4)  
新入会員オリエンテーション
2. 8 月度例会の担当 (他 4)  
現役会員同士の交流事業
3. 10 月度例会の担当 (他 4)  
会員の成長が得られる事業
4. 12 月度例会の担当 (他 4)  
会員交流事業
5. With コロナ対応事業への参画
6. 会員候補者の情報収集と会員拡大の主導
7. 魅力ある広報活動 (SNS 活用)
8. 日本 JC、地区、ブロックの各事業への積極的な参加
9. 総会決議、理事会で承認された事業および業務担当

### 【委員会運営方針】

1. 新入会員についての情報収集・リストの精査 (常時)
2. 積極的な勧誘活動
3. メンバーに対しての情報発信
4. 年間を通しての計画的な活動
5. 委員会内での情報共有の徹底



(報告動画はこちら)



## 2022 年度 事務局 基本方針

|       |       |
|-------|-------|
| 専務理事  | 中山 勝裕 |
| 事務局長  | 今村 洋介 |
| 財政局長  | 川井 智哉 |
| 副事務局長 | 宮本 直弥 |

### 【活動基本方針】

昨今の新型コロナウイルス感染症拡大により、様々な行動制限が課せられ、生活様式の変化、対面での活動の場が減少してから早や2年が経とうとしています。敦賀青年会議所の活動においても対面からオンラインへとシフトし、ハイブリッド会議の運営等、新たな運営方法が追加されて適宜柔軟な対応が必要となっています。組織運営を担う事務局においては、With コロナ・After コロナの時代においても、社会状況に合わせて柔軟な組織運営を行う事が求められています。

どのような状況下であっても青年会議所の活動は継続していく使命があり、円滑な運営を継続していく為には経験年数の浅い会員が様々な活動に触れて学んでいくことが必須となります。まずは風通しの良い横の繋がりをもった事務局を目指し、日々のコミュニケーションを大切にします。そして、事務局が不備のないスムーズな会議運営を行う事により参加者のモチベーションを維持させ、各委員会の目的達成のサポートをする役目を実感することが重要です。会員同士の建設的な議論やアイデアが生まれる場を提供し、事務局としての価値を実感することで情熱を持った活動を継続していくことになると考えます。今後もハイブリッド会議等のオンラインツールを併用した運営が見込まれるため、毎月の事務局会議にて会議運営上の課題を明確にして解決に向け取り組むことによって、敦賀青年会議所の組織力の向上はもちろん個人の成長にもつなげていきます。

オンラインツールを用いた会議運営等は今や社会のスタンダードとなっており、経営や通信環境が整っていればスムーズな意見交換が可能です。どこでも誰とでも繋がれるという点については大きなメリットであると捉え、各会議への積極的な参加を促します。また、地区・ブロック事業についても事務局が率先して参加することにより、出席率の向上を図ります。

財政局については、各委員会への適正な予算分配や助言を行うと共に、コンプライアンスの遵守の徹底により敦賀青年会議所の土台を支える責務があると自負しております。社会的に信用される団体であり続けるために、厳格な財政管理に基づいた透明性のある財務諸表の作成に取り組み、疑問や改善点があればその都度各メンバーと共有する等明瞭かつ公正な活動をおこなってまいります。

最後に、事務局一人一人が敦賀青年会議所の活動の土台であると自負し、厳格な組織運営を行ってまいります。時代の変化に対応した適切な運営方法を軸に、地域から信頼される敦賀青年会議所を目指し、事務局一丸となって日々の活動に励んでいきます。

### 【事業計画】

1. 定時総会の担当(他4)
2. 活動・指針報告会の担当(他4)
3. 臨時総会(7月・12月)の担当(他4)
4. With コロナ対応事業への参画
5. ホームページ・SNSの運営
6. ブロック公式訪問及び理事懇談会の設営
7. 理事会の設営
8. 総会・理事会の議事録の作成
9. 日本JC災害ネットワークに関する業務
10. 会員候補者の情報収集と会員拡大
11. 日本JC、地区、ブロックの各事業への積極的な参加
12. 総会決議、理事会で承認された事業および業務担当

### 【事務局運営方針】

1. 月1回の事務局会議の開催
2. オンライン会議ツールを用いた合理的な運営
3. 各委員会への迅速な対応
4. 事務局内の役割分担の徹底
5. 必要に応じての財務会議の開催



(報告動画はこちら)

# 公益社団法人敦賀青年会議所 2022年度 組織図

| 出向者             |       |
|-----------------|-------|
| 日本出向者           |       |
| JC教育委員会副委員長     | 林 昇平  |
| JC教育委員会小幹事      | 笠嶋 勇一 |
| 組織改革委員会委員       | 稲葉 紘一 |
| JCフロンティアメント会議委員 | 川口 輝笑 |
| JC教育委員会委員       | 曾我 裕貴 |

| 総 会 |
|-----|
|-----|

| 監 事   |
|-------|
| 岩井 達也 |
| 林 昇平  |
| 引場 健仁 |

| 理 事 会 |
|-------|
|-------|

|       |
|-------|
| 直前理事長 |
| 林 昇平  |

|       |
|-------|
| 理 事 長 |
| 家倉 崇史 |

| 出向者                 |       |
|---------------------|-------|
| 福井ブロック出向者           |       |
| レジリエンス確立委員会担当副会長    | 森山 将也 |
| 理念共感拡大ブランドデザイン会議副議長 | 景山 夏生 |
| レジリエンス確立委員会委員       | 榊間 夏生 |
| 持続可能な国際協力委員会委員      | 中山 国久 |
| 理念共感拡大ブランドデザイン会議委員  | 廣田 光範 |
| 事務局 次長              | 宮本 直弥 |
| 北陸信越地区出向者           |       |
| 地域ビジネス推進委員会委員       | 引場 健仁 |

